

令和8年4月

「Bルーム」と「サポートルーム」が一緒になります

## 登校支援室「be る～む」開室のお知らせ

全国的に不登校・長期欠席の生徒が増加しています。これまで、第一中学校では、「学校に行きづらい」「教室に入りにくい」生徒のために教室に戻るまでの居場所として「登校支援室『Bルーム』」を、また、不登校が長く続いている生徒への支援の場として「サポートルーム」を運営してきました。

令和8年度からは、こうした2つの機能を統合し、不登校・長期欠席の状態から教室復帰までのステップをシームレスにサポートする場として「登校支援室『be る～む』」を開室します。

「be る～む」のbeは英語の「be動詞」のbe  
「be る～む」は「あなた」という存在を大切にするための場所です

### ○ どんな生徒が利用できる？

「不登校が長く続いていて、登校再開に向けてなかなか踏み出せない」  
「教室への復帰は難しいが、少しずつ登校できるようにしたい」

このような場合は、月曜日と金曜日に、時間を決めて利用することができます。巡回指導の先生(磯村先生)と相談をして、あなたにふさわしい利用の仕方を一緒に考えましょう。

「A-Room から教室復帰を目指そうとしている」  
「欠席がちだが、長期欠席・不登校にならないようにしたい」  
「学級での授業や活動に参加できない心理的・身体的な事情がある」

「be る～む」には常駐する先生がいませんので、自分で安全・安心な環境を守って自学自習できることを条件に、休日・休業日を除く(月)から(金)までの週5日間、朝学活終了後から学年の終業時刻まで利用可能です。その日の利用時間は自分自身で決めて職員室に伝えることになっています。

### ○ 「be る～む」での過ごし方は？

- ❖ 不登校が長く続いている人は、巡回指導の先生や学年の担当の先生、担任の先生と相談して、利用日(月曜、金曜)の時間や過ごし方を決めます。
- ❖ 教室復帰を目指す人は、自分で教材を準備して「自学自習」したり、教室からのオンライン配信を視聴したりします。
- ❖ いずれの場合も、相談したいことなどがあれば、カウンセラーや先生とお話することができます。

### ○ 「be る～む」は出席日数や学習評価の対象になる？

- ❖ 「be る～む」に来た日は「出席」になります。なお、「be る～む」での学習状況は原則として評価の対象にはなりません。

「be る～む」の利用を考えてみたいという生徒の皆さん、保護者の皆様は、以下の利用開始までの流れを確認のうえ、担任の先生や学年の先生にご相談ください。

## 登校支援室「be る～む」を利用するまで(令和 8 年 4 月版)

### Step1 まずは担任や学年の先生に声をかけてください

- 担任の先生や学年の先生に「be る～む」の利用を検討したいと伝えてください。
- 不登校が長く続いている場合など、学校から「be る～む」の利用を勧めることもあります。

### Step2 説明を聞いて利用希望を

- 保護者も交えて「be る～む」の利用について学校から説明をします。
- 実際に利用を希望するかどうかは、説明を受けてから決めてかまいません。

### Step3 一中の校内委員会で検討します

- 「be る～む」が希望者のために役に立てるかどうかを一中の校内委員会で検討します。
- 「be る～む」が適切だと判断した場合は確認書類を提出してもらいます。
- 十分な対応が難しいと判断した場合は「A-Room」など他の支援を勧めることがあります。

### Step4 「be る～む」をどう活用していくかを一緒に考えましょう

- 利用が決定したら、担任の先生や学年の先生、巡回指導の先生と相談しながら、これからのように「be る～む」を活用するかを決めましょう。